

## \*\*フィリピンの現状\*\*

販路支援課 国際化支援 G 佐川 倫次  
(国際化支援アドバイザー)

去る2016年3月、マニラでの WORLD BEX (フィリピンで開催される建材に係る国際見本市)に出展している現地の代理店のブースの一角での島根県産の瓦展示をお手伝いするため、瓦メーカーさんの方と一緒にマニラ入りしました。

出雲空港→羽田空港→マニラでフィリピン入り。羽田空港から4時間。あっという間のマニラ到着です。

皆さんは、フィリピンという国に関してどんな印象を持たれてますでしょうか？

日本人の持っているフィリピンのイメージとは、マルコス大統領、イメルダ婦人、世界最強のボクサーの一人と言われた国民的英雄～マニー・バッキョオ、ルバング島から帰還した小野田寛朗さん、ダイバーのあこがれのセブ島などでしょうか？

今回は、首都マニラの発展ぶりを垣間見ながら、現在のフィリピンの現況と、同国の抱える問題点を見ていき、今後フィリピン市場に参画していきたい企業の皆様のご参考になればと思います。



高層ビルが立ち並ぶマニラ市内

### フィリピンの概況：7,190の島から成り立っている海洋国家

フィリピン共和国は、総面積は日本の約8割、7,109の島から成り立っている海洋国家です。人口は1億人も言われ、首都マニラには1,200万人が住んでいます。現在中国と南シナ海での領域問題で係争しているのは皆さんご承知のとおりでしょう。今後の対中国政策次第では、一波乱、二波乱もありそうな国です。アメリカ軍が駐留していることもあり、先日の大統領選では政策論争の一つにもなっていました。

民族的にはマレー系が主体ですが、中国系、スペイン系及びこれらの混血系並び小民族がいます。国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語、及び英語となっています。

非常に人懐っこい国民性で、平均年齢26歳の年齢構成の若い国（日本人は約46歳）です。人口も1億人に達し、将来的には豊富な労働力が見込まれています。識字率も96%と非常に高く、勤勉的な国民性もあり、今後のアジアを引っ張っていく国の一つになりつつあります。

### フィリピン人の英語力と宗教と治安

英語圏ということもあり、近年、日本からの英語留学生が増えていると聞きます。また、日本の中・高等学校での英語の授業にパソコンでフィリピンとインターネット回線で繋いでマンツーマン英会話教

育が取り入れられ、脚光を浴びています。

国民の 83%がクリスチャンというアジア唯一のキリスト教国ですが、極少数、イスラム教徒が居住するエリアがあります。昨今世界中で問題になっているイスラム過激派のテロ行為の影響を受け、首都マニラでの警護が厳しくなっていました。ビジネス街の高層ビルや、ホテルでの入館に関しては、入り口で麻薬犬や、ガードマンなどによりチェックを受けます。一部のオフィスでは ID カードの提示（パスポートや ID カードの提示）を求められます。

マニラ市内は慢性的な交通渋滞状態です。日中オフィス間の移動にタクシーを利用しましたが、空車をキャッチするのに一苦労しました。公共交通機関が整備されておらず、移動には不便も有りますが、それを除けば物価も安く非常に住みやすい国かと思えます。

気候的には、熱帯気候ながら雨も多く、又日本同様台風には、泣かされています

### 近年のフィリピンのイメージ

近年では、従来のセブ島などの観光産業に加え、フィリピン女性の日本での介護派遣やなど豊富な労働力供給や、英語圏であることより若手を中心とした人の英語の短期研修や衛星通信を使つてのマンツーマンの英語研修などソフト産業の方に脚光を浴びています。

フィリピンも第二次世界大戦で日本の占領下に置かれた国ながら、インドネシア、台湾と同様、現在では、非常に親日的な国の一つになっています。

現状、フィリピン国内には主たる産業もないため、フィリピンを出て海外で働く人が多く、この方々がフィリピンに外貨送金を行っており、今や GDP の 1 割をまかなっているのが現状です。

### GDP の向上と車社会の到来

近年個人当たりの GDP が 3,000 ドルを超え、徐々に車社会化しつつあります。統計によれば、年間 7 万台ずつ増加しているようです。トヨタ・ホンダ・三菱・日産をはじめとした日本車が圧倒的に多いですが、外車ではベンツ、また韓国メーカー製なども見受けられます。

経済成長率も 6～7%と安定、物価上昇率も 4%前後と安定しています。失業率は 7%前後で推移しているようです。

日本のコンビニも、セブンイレブンを筆頭にファミリーマート、ローソン等も進出しており、コンビニは、フィリピン人にとって既に身近な存在となっているようです。



### 日本、島根との繋がり

日本政府も近年 ODA の援助を積極的に行っており、急速に発展しつつあるマニラ周辺地域のインフラ事業に多額の資金援助を約束しています。マニラ周辺 40 km の交通インフラに 2,400 億円の資金援助をコミットしていて、日本は、フィリピンにとって最大の援助供与国になっています。

一方、島根県との繋がり、マニラ向け、セブ島向けの瓦のビジネスなど非常に限定されていますが、昨年度は JICA の支援を受け島根県の企業がウニの養殖の実験を行ったりしているようです。今後のフィ

フィリピンの人口構成や、国民性などを考えますとビジネスチャンスのある国の一つかと思えます。

### フィリピンの産業と今後の発展性・課題について

フィリピンの主要産業はサービス業（コールセンター事業等のビジネス・プロセスアウトソーシング（BPO）産業を含めたサービス産業）で、全就業人口の約5割強が従事しています。その他、農林水産業に全就業人口の3割が従事しています。

また、前述のとおり、GDPの1割程度が外地で働くフィリピン人によるものです。海外で働いているフィリピン人の多くが船乗りであり、マニラの空港や、マニラ⇄シンガポール（シンガポールはタンカーや、定期航路船の船員の乗り換えが行われている）の飛行機の乗客には多数の船員が見受けられます。

一方で、国内には主たる二次産業が育っておらず、国内消費が堅調に伸びている車産業も部品を他国より持ち込み組立を行うアセンブリ的な形態が多いのが実態です。二次産業の育成（高卒生の雇用の受け皿）は今後の課題でしょう。

労働争議の少なさ、教育を受けた若年労働者の雇用確保、（ベトナム、インドネシアと比較における）実質賃金や賃金上昇率の低さなど優位性があるため、製造業の進出先として有望だと思われませんが、一方で、総じて電気代は割高感があり、多量の電気を消費する製造業にとってはコストメリットがなく、それが主たる製造業が育たない背景にもなっているようです。

また、豊富な若年労働力の活用及び技術的人材の育成には、腰を落着けた取り組みが必要でしょう。日本企業でもJICAのバックアップも受け現地での人の雇用、教育人材育成、その後の日本での研修を経て再度フィリピンでの同じ会社での雇用の保証等で人材の育成を図っている事例も出始めています。また、フィリピンの企業では女性の活用も活発で、地元企業では女性のマネージャーを随所で見かけます。

上記のような課題もありますが、日本政府の支援継続もあり、日本企業の更なる参画が期待される国です。

### 建設ラッシュは続くのか？、交通渋滞は解消されるのか？

マニラ市内には大型ショッピングモールが続々と出来つつあり、また高層マンション、ホテルの建設ラッシュも続いています。

交通インフラの問題は深刻で日に日に悪化しており、環境問題も考えると早期の対策を打たないと市内の機能がマヒすると思われます。前記の治安の問題や、自動車以外の移動手段がないことから、日本の企業によっては、フィリピン国内では社有車での移動を義務付けているところもあります。



又、国際空港ターミナルの増改築や、マニラ近郊の交通インフラ整備、上下水道のインフラの整備など、インフラ関係の課題は山積です。6月に正式に就任する新大統領の政策次第では、経済動向にも影響がでてくるのが心配されるところです。

課題は数々ありながらも、可能性を秘めた新興国であることは間違いありません。まずは今のフィリピ

ンを一度ご訪問してアクテブフィリピン、マニラを見ていただきたく思います。

(了)